



## ②保育士に関する課題

# 保育職員採用にあたっての課題

いま、日本の保育現場に求められる人材とは？



## 少子化・核家族化時代に応じた保育サービス

⇒教科書通りの保育ではなく、保護者からのさまざまな保育ニーズや、子育てに  
関する悩み・相談に応えられる人材が不足している

## 日本の乳幼児教育への取り組みの遅れ

⇒乳幼児(特に0~2歳児)の教育に関する情報の不足により現場の保育職員が  
握りどころとする教育指針がなく、そうした知識を持った人材が不在。

## 幼稚園から保育所への急速なシフト：保育所の担う役割の増加

⇒3歳以上児のうち41%が保育所へ(幼稚園利用者は50%を割る見込み)

保育所職員には「教育的要素」「専門的要素」が不足している。

## 保育所に求められる「地域の子育て支援」機能

⇒社会経験などがない保育士には、各家庭での子育ての悩みなどに関する知見が充分

備わっていない。



## 保育職員採用にあたっての課題

課題①  
『求められる人材』と保育士養成施設を経て保育士になる人材とのミスマッチ

保育技術だけではなく、  
「社会性」「豊かな人間性」  
「コミュニケーション能力」  
「乳幼児教育～0歳からの教  
育～に関する見識」  
「臨床心理」  
「音楽・体育・英語・国語・芸  
術分野等への専門性」  
など、幅広いスキルを持つ  
人材が保育現場には必要

ミスマッチ

・保育専門学校や短大などで  
保育士の資格を取得した人材  
(人生経験・専門性が未熟)  
・保育所には「保育士」資格が  
絶対の条件  
※認可保育所は10割、東京  
都認証保育所においても6割  
以上の保育士が必要

# 保育職員採用にあたっての課題



課題②

保育士有資格者であり、自身の子育てや社会人経験を持った人材が埋もれている

保育士有資格者150万人  
(旧保母資格者を含む)



保育業務従事者31万人

主たる  
退職理由

- ・結婚／出産
- ・家族の介護
- ・保育現場の業務による心身の負担(腰痛など)
- ・賃金の安さからの転職

まずは埋もれた  
経験者を保育  
現場へ戻すべき

一度現場を離れてしまった人に「もう一度現場に戻る」きっかけを与えることで  
子育て支援に情熱を持っている人材の有効活用が可能

# 保育士OB・幼稚園教諭OB再チャレンジ研修

NPOポピinz主催・厚生労働省／経済産業省後援



## 参加対象者

保育士・幼稚園教諭の有資格者で現在保育現場を離れている方

## 参加状況

東京会場(計4回開催) 162名

名古屋会場 37名

仙台会場

大阪会場

130名(※10月18日～19日予定)

全国340名が  
参加

## 参加者属性

保育士	保母 (書換・未)	幼稚園 (1級)	幼稚園 (2級)	平均年齢	実務経験 (何年程度)	ランク年数
91	68	25	175	40.9	6.4	13.9

参加者のうち「フルタイムで現場復帰できる」のは1割程度。

大半は短時間・曜日限定でしか仕事ができない。

保育現場に求められるのは常勤(1日6時間・月20日以上)職員中心





## 保育士OB再チャレンジ研修について

参加してみようと思った動機は？

- 5年前と、今の保育はずいぶん変わっているので、少しでもブランクが減るように。
- 長い期間、保育士の仕事を離れている為、最近の状況が知りたい。復職を考えている。
- 定年退職後に子どもと関わる仕事ができたらと思った。
- 現在の保育事情を知りたい。年齢的にも時間の余裕が出てきたのでもう一度仕事をしたい。
- キャリアはあるが、新しい保育の状況を知りたい。昔と今の保育方針の違いなど。
- 再就職を考えたがなかなか勇気が出なかつたが、このような企画を開いて頂けることで一步を踏み出しあみようと思った。
- 自らの子育てもひと段落し、働く女性が多くなった今日、少しでもそういう女性の手助けができるばと思い参加した。現場を離れているので今の保育現状や子ども達の様子を知りたいと思いました。

きっかけさえあれば、現場に戻ってみたいという層は確実にいる





## 現行の保育士資格とは別の枠組みについて

ポピinzコーポレーションの人材活用に関する取り組み

### 施設管理者の配置

- ・施設長＝保育士有資格者と限定されるため、施設長とは別に、大学・大学院等で教育学や心理学を学び、社会人経験などにおいて一定のスキルを満たす人材を新たに「**施設管理者**」として配置。

- ・保護者とのコミュニケーションやスタッフ育成など、実際の現場での業務を担務。

### 子育てサポートの配置

- ・1日6時間以上勤務する「常勤スタッフ」以外に、育児経験・社会人経験を持つ主婦層などを対象に、登録制の「**子育てサポート**」制度を設置(全社450名)  
⇒短時間勤務・無資格でも現場経験をつむことが可能(平均勤務時間3時間/日)  
⇒多様なスキルを持った人材を活用することが可能





## 現行の保育士資格とは別の枠組みについて

### 子育てサポートーの研修例

合計15時間程度の研修を受講

- ①基礎研修 : マナー・保育理念・起こりやすいケガ・リスクマネジメント  
保健衛生・保護者対応・アレルギー児への対応  
調乳・オムツ替えなど動画ビデオでEラーニング
- ②乳幼児救命救急 : L.S.F.A救命救急専門講師による指導  
認定コースの受講で応急手当の資格認定を取得
- ③異文化理解教育 : 英語の苦手な人でも、楽しい手遊びや簡単に楽しめる  
ゲーム遊び・乳児もできる制作など幅広く指導

子育てサポートーはこれらの研修を受講の上、現場へ配置



# 現行の保育士資格とは別の枠組みについて



## 子育てサポートの現場での活躍の実例

- ◆子育てサポートもスタッフと同じ意識で、子どもの心の安定や安全に配慮しながら仕事をしてもらっている。
- ◆子育て経験の豊富な子育てサポートは、お迎えの時に保護者からの小さな悩み相談に対応することもある。
- ◆手品や楽器演奏など、得意な趣味を持つている子育てサポートは誕生会や季節の行事で発表するなどの活躍もしている。
- ◆子育て中の方は、お子様が小学校から帰る前までの時間帯、お子様が成人された方は、ご自身の趣味の習い事のあいている時間帯など、自身のやりたいことを尊重しながら、無理なく仕事ができるので皆さん、生き生きと仕事をしている。

